

令和 6 年度「ぶらっと街歩き・余目界限」レポート 鈴木健治

「余目界限」は令和 4 年度にも企画されたものの、雨のため中止。代わりに市民センター研修室において、座学「mini 歴史講座」を行うことになった経緯がある。

「やはり実際に歩いてみたい」という要望が強く、今回開催することとなった。

日時は令和 6 年 5 月 25 日（土）10 時～12 時。集合場所と解散場所は岩切市民センター。参加者 18 名、スタッフ 5 名の総勢 23 名。当日は時折風が吹いたが、幸い寒くもなく暑くもなく、ぶらっと街歩きには程よい天候に恵まれた。

案内役は岩切おもしろ倶楽部（IOC）副会長の三浦雄司氏。それに岩切歴史探訪の会の佐々木文彦さんにも加わっていただいた。

出発前に、玄関前で三浦副会長から挨拶と本日歩くコースと余目の概要についてお話があり、すぐに出発ということになった。

岩切市民センター出発するとすぐに利府街道に架かる歩道橋を渡り、さらに東北本線に架かる歩道橋を渡っていよいよ余目地区へ足を踏み入れる。

そこからしばらくは田子用水路に沿ってひたすら歩く。道すがら、三浦雄司氏が熱く語る「余目」の地名の由来や田子堰拡大の歴史、東北最大の都市に至る壮大な話に耳を傾ける。

やがて、ひとつの菩薩堂に行きつく。観世音菩薩堂だ。右の観音様には天明 6 年、左の観音様には正徳 2 年と刻まれている。中央の観音様には年代不明であるが 300 年以上前に作られたと思われる。そして、お堂手前には船形山神社碑、お堂左には馬頭観音が祭られている。また、観音様の左手前には三猿を彫った丸い形の碑「庚申塚」（宝暦 12 年とある）がある。三浦雄司氏のお話は「名剣屋敷」「伊澤家影公屋敷跡」「余目城」と続き、さらには「余目の刀鍛冶」「留守氏」「今市」の話へと続く。

余目集会所へと歩みを進めると、「藤子山神社（神明社）」（鴻巣 2 号公園近く）にたどり着いた。この神社は以前は七北田川の川べりにあった（新幹線鉄橋の橋げたのところ）が、頻繁に洪水で流されるため、現在の位置に祀られるようになったという。

余目集会所のある公園で一休み。嘉藤氏が前もって木陰に椅子と冷たいお茶を用意しており、一息入れる。一息入れている間にも三浦氏の話は続き、私たちは聞き漏らすまいと耳を傾ける。時折話をはさまれる探訪の会の佐々木さんのお話も面白い。

帰りには七北田川右岸の堤防沿いを辿り、岩切市民センターへと向かう。帰り道の途中にも何度も立ち止まり、参加者からの質問に丁寧に答える三浦氏の姿があった。

